

豊かな郷土をかなえる 架橋と治水の技と知恵

緑川水系の清冽な流れに彩られ、種山石工の息吹を伝える益城路



7 霊台橋 れいだいきょう

熊本県南部の山間に広がる益城地方は、豊かな自然に恵まれた農林の里。卓越した技を誇った種山（現在の八女市東陽町）の石工の事績が周辺に残り、人々の暮らしと郷土の繁栄を支え続け、今も確実に受け継がれている。堅牢な石造橋の架設をはじめ、治水事業や灌漑設備などを実現した土木技術が、過去、現在、未来を支え、大きく貢献している事例に改めて注目してみたい。

伝説の名工勘五郎の技

九州自動車道「御船」ICから国道445号を南東へ進み、国道443号経由で県道221号を東へ。守護神社の先、案内板に従って右に入ると、御船川・八勢眼鏡橋 **1** が現れる。江戸時代、熊本と延岡を結ぶ日向街道に架けられた眼鏡橋の全長は62m。完成は安政2年（1855）。本流に架かる部分と左岸を流れる用水路に架かる部分が一体となった堂々たる石橋である。これを築いたのは種山石工の卯助、甚平とされるが、この2人は名石工として知られた、あの橋本勘五郎の兄と弟なのである。

県道221号に戻って西へ。茶屋ノ本の三叉路を左折し、国道445号を西へ進むと下鶴橋 **2** が見える。蔦に彩られた橋壁、アーチを描く輪石の重厚な姿が印象的である。この石橋は明治19年（1886）、名工・橋本勘五郎、弥熊父子によって築造

されたもので、丸みを帯びた石造りの親柱は、酒好きの弥熊が徳利と杯の形を模したものとされている。

国道443号に戻って南下し、緑川に架かる日和瀬橋の手前で左折すると、川面を白く波立たせる鵜の瀬堰 **3** が目を引く。全長約660m、幅約85mという石堰は慶長13年（1608）の築造。あの加藤清正の治水事業の一つであり。大変な難工事だったとされ、堰を築造する場所を川の鵜が教えたという伝説が伝えられている。川を斜めに横断する堰が流れの勢いを和らげ、ここで得られた灌漑用水が、今も周辺の663haの水田を潤している。

緑川水系の双子の石橋

国道443号を南へ走り、津留川を渡る手前で左折して進むと、全国でも珍しい双子の石橋がある。緑川水系の釈迦院川に架かる二俣橋（二俣渡） **4**、津留川に架

かる第二二俣橋（二俣福良渡） **4** が乳字型に並ぶ。文政年間（1818–1831）の架橋とされ、両橋の長さや幅、アーチの形や石積みの組み方はほぼ同じである。ところが、平成28年（2016）4月の熊本地震で第二二俣橋（二俣福良渡）の右岸の壁石が崩落した。現在、修復は完了しているので、両橋を見比べて復活ぶりを確かめてほしい。

さらに二俣橋（二俣渡）のすぐ上流、狭い谷間にそそり立つ雄大な年瀬橋 **5** が見える。実は中央の大アーチの西側に2つ、東側に1つの小さなアーチを備えた4連の石造アーチ橋である。橋高24mという迫力十分の見事なアーチ橋である。

二俣橋（二俣渡）から東へ。国道218号に出たら東へ向かい、県道153号へ。途中、光岸寺の前を過ぎて道なりに走り、案内板に従って林道を右に進むと、山深い谷間に思いのほか高く頑丈な雄亀滝橋 **6** が現れる。石造単一アーチ水路橋であり、



1 御船川・八勢眼鏡橋 みらねがわ・やせめがねばし



2 下鶴橋 しもづるばし



3 鶉の瀬堰 うのせせき



4 二俣橋(二俣渡)・第二俣橋(二俣福良渡)

ふたまたはし(ふたまたわたし)・だいふたまたはし(ふたまたふくらわたし)



5 年禰橋 としねはし



6 雄亀滝橋 おけだけばし



8 通潤橋 つうじゆんきょう



9 笹原の石蹟 ささはらのいしせき

路面上に水路が埋め込まれ、今も現役で約230haの田畑を潤している。完成は文化15年(1818)。美里町では最古の石橋であり、水路橋では県内で二番目に古いもの。同じ水路橋である通潤橋の設計では、この橋の構造が参考にされたという。

日本最大の石造水路橋

国道218号に戻り、東へ向かうと、道路の左側、緑川に架かる**霊台橋** **7** が見える。ここ船津狭は古来から難所と言われ、かつては渡し船が行き来し、後に木製の橋が何度も架けられたが、度々流失した。そこで地元の惣庄屋が出資し、種山石工の卯助、宇一、丈八(後の橋本勘五郎)に架橋を依頼。弘化4年(1847)にわずか10カ月で造り上げたと伝えられる。橋長は89.9m。石造単一アーチ橋として明治以前のものでは日本最大を誇る。橋の中央がなだらかに盛り上がる姿、アーチの華やかな曲線、堅牢な石組みも端正で美しい。

国道218号を東へ走り、県道180号に右折して進むと、有名な**通潤橋** **8** がある。地元の惣庄屋・布田保之助が白糸台地を灌漑するため、雄亀滝橋などの構造を調べて設計し、種山石工の宇一と丈八らに施工を依頼した。完成は嘉永7年(1854)。橋長75.6m、橋高20.2mという日本最大の石造アーチ型水路橋である。しかし、熊本地震で内部の通水管にズレ

が発生。ようやく修復が完了したが、平成30年(2018)5月の集中豪雨で壁石の一部が崩落。現在、修復計画を検討しているという。

さらに国道218号を東へ進み、聖橋で左折して県道141号を走ると、右手に**笹原の石蹟** **9** がある。笹原川に築造された幅20m、全長48mの石蹟は、これも布田惣庄屋の灌漑事業の一つ。石蹟の上流で

取水した用水は、通潤橋にも送られ、白糸台地を潤している。

二俣橋(二俣渡)の近く、国道218号の北側には温泉・宿泊・飲食施設を備えた「道の駅美里 佐俣の湯」がある。通潤橋のすぐ前にある「道の駅通潤橋」は、物産館のほか橋の歴史、構造などが学べる史料館を併設。時間を確保し、ぜひ眺めてみたい施設である。



熊本県

上益城郡御船町
上益城郡山都町
甲佐町
下益城郡美里町



道の駅「美里『佐俣の湯』」



道の駅「通潤橋」



土木遺産 in 九州のホームページアドレス <http://dobokuisan.qscpua2.com/>